



2月15日は「国際小児がんの日」です ご存知ですか？子どもにもがんがあります

小児がんは治る病気です

しかし、途上国では医療機関にかかるのが遅れるために、治癒率の低下につながっています。我が国をはじめ先進国では小児がんにかかった子ども10人の内8人までが病気を克服できていますが、途上国等では主として病院への受診の遅れが原因で、10人の内わずか2~3人しか病気を克服できていません。このことは、毎年90,000人以上の子どもたちの命が失われていることを意味しています。

小児がんにかかった子どもたちのために、次のような理解を広めてください。

小児がんの予兆といえる以下のような症状が続いた場合は、早く医師の診断を仰いでください

- 眼が白く光る、突然斜視になる、目が見えなくなる、眼球が飛び出す。
- お腹のなか、頭部、頸部、手足、睾丸、分泌腺(耳下腺、顎下腺)などにしこりがられる。
- 原因のはっきりしない発熱が2週間以上続く。
- 体重減少に加えて顔色が悪い(青白い)、倦怠感があり疲れやすい、あざができたり出血したりしやすい。
- 骨、背中や節々が痛く骨折しやすい。
- 神経学的な兆候：歩き方がおかしい。歩けない。バランスが悪くなる。うまくしゃべれなくなった、成長発達の指標より遅れた発達や退行。2週間以上続く頭痛(嘔吐を伴うことも伴わないこともある)、頭囲の拡大。

※これはICCCPO(国際小児がん親の会連盟)とSIOP(国際小児がん学会)が作成した世界共通のメッセージを日本語に訳したものです。国際小児がんの日に世界で一斉に発信されています。



日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。

小児がんの治療は外科的治療、放射線治療に化学療法を加えた集学的治療により目覚ましい進歩を遂げ、現在では病気によっては約8割の子どもたちが長期生存できるようになっています。とはいえ小児がんは子どもの病死順位の第1位を占めており、年間約500人の幼い命が失われていることも忘れてはなりません。

小児がんの治療は長期に及びます。そのため家族の二重生活、治療中の学校や幼稚園などの問題、進学や就職、結婚出産など様々な課題があります。そのために周囲のサポートが必要になってきます。

皆様の温かいご支援とご理解をお願いいたします。



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会
Children's Cancer Association of Japan

URL: <http://www.ccaj-found.or.jp> E-Mail: nozomi@ccaj-found.or.jp

本部: 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

Tel: 03-5825-6311(代表) 03-5825-6312(相談専用) Fax: 03-5825-6316

大阪事務所: 〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1

Tel: 06-6263-1333(代表) 06-6263-2666(相談専用) Fax: 06-6263-2229